十和田市立 新渡戸記念館だより

▲新渡戸稲造コーナーを見学なさる両殿下とご案内の新渡戸館長

7月23日十和田湖町や八甲田山系などで開催された自然公園大会にご出席の常陸宮(ひたちのみや)殿下、同妃殿下が、7月25日十和田市にお越しになりました。同日12時から約30分間当館を見学され、宮様は、館長に「クラーク博士と新渡戸稲造博士は会ったのですか」「花巻、盛岡にも新渡戸稲造の記念館があるが交流はありますか」などの質問をなさり、新渡戸稲造について特に興味をお持ちのご様子でした。

常陸宮殿下・同妃殿下ご来館

▲中野渡十和田市長、織川市議会議長をはじめ市関係者が出迎える中、館長の先導で記念館へむかわれる両殿下。

▲太素塚には約100人の市民が出迎え、両殿下は見学後、記念館前で園児や市民の見送りをお受けになりました。

撮影：十和田市総務課広報広聴係

9月27日 新渡戸傳翁(つたう)命日祭

三本木原開拓の祖・新渡戸傳翁の没後131年命日祭を9月27日午前10時30分から太素塚でとり行いました。太素顕彰会会長・中野渡十和田市長をはじめ役員関係者が新渡戸傳墓前に参拝後、境内にて茶会を行い傳翁の遺徳をしのびました。中野渡会長は「傳翁の開拓精神から学ぶことは多い」と挨拶し、子孫を代表し新渡戸館長が感謝の言葉を述べました。

◀命日祭式典の様子

生涯学習フェア2002

あおもり県民カレッジ手帳持参の方は観覧料無料　期間：10月1日～31日

※ 十和田市民は常に無料です

特集　新渡戸記念館蔵書『方言修行 金の草鞋 二十一編』より

十返舎一九が描いた南部

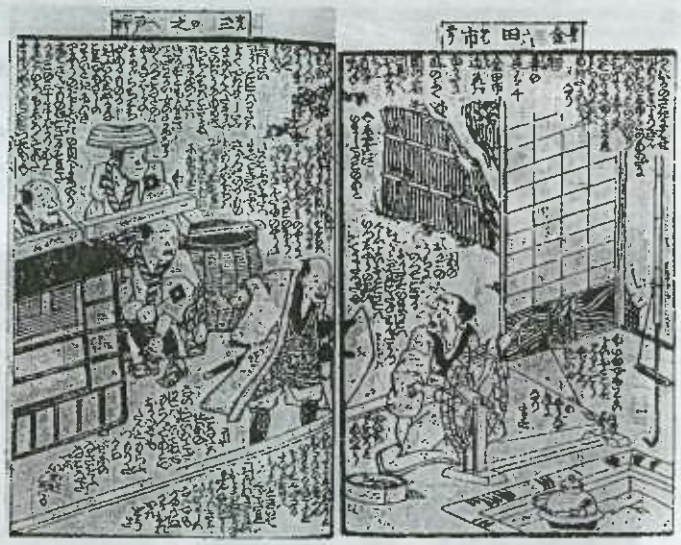
▲表紙題箋には「諸国道中金乃草鞋」とあります

前号（第29号）の記念館だよりで館蔵書の中から十返舎一九著『方言修行 金の草鞋 二十一編』の藤島～相坂の渡船場（現十和田市内）を描いた部分を紹介したところ、さらに近隣の様子についても紹介してほしいとの要望が多くよせられました。そこで、同書から南部盛岡藩領内を描いた部分をいくつかご紹介します。

「金のわらじ」シリーズ

『金の草鞋』シリーズ全24冊は文化10年～天保5年（1813～1834）頃に出版されました。今回ご紹介する『方言修行 金の草鞋 二十一編』（南部宇曽利山参詣の巻）は山形県鶴岡市から秋田県秋田市、角館、岩手県盛岡市を経由して、青森県の恐山へ向かうルートを紹介しています。出版された天保2年（1831）に、一九は67歳で亡くなっていますので最晩年の作品です。一九の代表作といえば、弥次郎兵衛（弥次さん）と喜多八（喜多さん）の珍道中を描いた『東海道中膝栗毛』です。狂歌や洒落をおりまぜた手法は両作とも同様ですが、『金の草鞋』では各地の宿場町や名所の案内にも力を入れ、住人と旅人の交わすおかしな会話の前に、次の宿場までの距離など実質的な情報をもりこんでいます。

▲盛岡
「名産かたくり」の看板が見えます。岩手山（巌鷲山）を「山のかたち富士によく似たるゆへ、奥の富士といふ」と紹介しています。
（狂歌）あきないは　岩わし山の　名にしおふ
　　つかみどりなる　もりおかのまち



▲金田一～三戸
「福岡の先にはせ川（馬渕川）あり、それより金田一の宿、このあいだに一戸あり、三戸の入口に羽州大館のかたへゆくわかれみちあり、これは秋田街道なり」と地理情報を詳しく書いています。
（狂歌）春の夜は　千金田市　近かければ
　　ゆかたに風の　ふく岡の宿

◀浅水～五戸
「五戸よき町なり、町なかに坂あり、坂を下りて橋あり（五戸川にかかる橋）橋のむかいまた町つづきなり」と坂の多い町中の様子を書いています。

「金の草鞋二十一編」の旅行ルート

◀七戸～野辺地
「青森のかたへ行くわかれ道は野辺地にあり」と街道についての情報を記しています。また木綿糸を刺す「刺し子」をこのあたりの住民が着ていることを風俗として紹介しています。

▲田名部
女性が風呂敷をかぶっており、なかには木綿糸で美しいもようをさしたり、新しく美しい風呂敷をかぶった婦人もいることを風俗として紹介しています。その印象については「しほらしくみえたり」と記しています。

◀恐山・円通寺境内
境内の様子を「山中に様々の地獄と称する処その数多し、ことごとく記し難し、誠に珍しき境地、言後に述べつくし難し」と記しています。
また、恐山の開基が慈覚大師であり、その後円空法師が千体の像を修補していることなどを成り立ちとして紹介しています。その他「つるぎの山」をはじめ奇怪なかたちの石が多く、また石の色が皆血のように赤いことや、野鳥・仏法僧がいることなど現代の旅行雑誌と同様読者にアピールする情報を選んで掲載しているようです。

博物館実習レポート

―10日間の実習を終えて―

平成14年度の実習では、期間中に ①館内温湿度計データの分析 ②常設展評価ならびに改善 の2つの課題をおこなってもらいました。

北里大学獣医畜産学部 4年生　上柿（かみがき）文吾

実習を終えて学芸員は大変な仕事だと感じました。学芸員とは、博物館等が収集、保存する資料の展示および調査研究等の事業に関して専門的に置かれる職員の資格であると学校で学びましたがこれは大きな博物館でのことだと思いました。全国で大きな博物館は数える程しかなく、ほとんどが中小の博物館で、小さな館では清掃、受付、お客様へのお茶出し等の仕事もあります。私は小さな博物館を選んでよかったと思っています。清掃の仕方（火のおこし方）、事務的なこと、受付など学芸員以外の仕事も経験することができたからです。新渡戸記念館は小さな博物館の見本のような館だと感じました。展示も三本木原開拓の歴史から新渡戸稲造博士の偉業までコンパクトにまとめられ、小さな館とは言え十分に見ごたえのある内容です。また来館者へも親切で気持ちのよい対応をしており、この対応を学んだことは私自身が社会に出ても役に立つと思います。太素塚のお墓の清掃では地域の方が手伝って下さり地域に愛されている館だと感じました。博物館は生涯学習施設であり地域との連携がこれから大事になっていくと思います。そのよい例が記念館にはありました。最後になりますが記念館の名前を知らなかった自分を実習生として受け入れて下さった館長をはじめ皆さんありがとうございました。

▲実習生の上柿さん（中央）とともに

関 連 情 報

◆ 新渡戸稲造生誕140年記念祭開催

9月6日、東京千代田区平河町マツヤサロン6階において新渡戸稲造博士生誕140年祭（主催：新渡戸博士記念行事実行委員会／事務局：盛岡市 財団法人新渡戸基金）が開催されました。遺族として新渡戸稲造の孫・加藤武子さんが挨拶の後、大阪市立大学名誉教授・佐藤全弘（まさひろ）氏が「今こそ新渡戸精神を生かそう」の演題で講話を行いました。当館館長の代理として、在京の新渡戸常憲氏が出席し、ともに稲造博士の遺徳をしのびました。

◆ 五千円札肖像が新渡戸稲造から樋口一葉に

8月2日、昭和59年（1984）から慣れ親しんだ新渡戸稲造博士の五千円札が平成16年（2004）デザイン変更となり、肖像画は女流小説家・樋口一葉に変わることが正式発表となりました。一万円札は福沢諭吉のままデザインが変更となり、千円札は夏目漱石から細菌学者・野口英世となります。

◆ 新渡戸稲造関係書籍を木村守男知事より寄贈受ける

3月に新渡戸稲造生誕140年記念として出版された財団法人新渡戸基金事務局長・内川永一朗氏の著書『永遠の青年 新渡戸稲造』を、青森県知事木村守男氏より4冊、十和田東病院より1冊寄贈頂きました。また木村知事と増田寛也岩手県知事他による座談会「新渡戸博士を語る」収録の『新渡戸稲造研究 第11号』（財・新渡戸基金）も木村知事より1冊寄贈いただきました。

◀「永遠の青年 新渡戸稲造」表紙
（内川永一朗 著）

◆ 7月1日～9月30日の来館小学校

＜十和田市＞藤坂小学校／南小学校／ちとせ小学校＜八戸市＞高舘小学校／鮫小学校／柏崎小学校／町畑小学校／根城小学校／下長小学校＜三沢市＞古間木小学校＜六戸町＞大曲小学校＜五戸町＞豊間内小学校＜三戸町＞目時小学校／三戸北小学校

◆ カナダ・レスブリッジ市長、同市姉妹協会長来館

十和田国際交流協会・十和田市共催「友好交流フォーラム」（9月16日・北里大学視聴覚ホール）のため来市されていたレスブリッジ市長R・ターレック氏、レスブリッジ姉妹協会（国際交流団体）会長H・パレヴァセフ氏が、9月14日十和田国際交流協会常任理事・村山康子さんと同会通訳ボランティアの方々とともに来館しました。

◀新渡戸稲造博士銅像前での記念撮影
（中央の白いズボンの方がターレック市長、その右隣がパレヴァセフ会長）

◆ 太素塚の清掃奉仕

7/7・8/4・9/1・9/22 本瀬戸山老成会
9/20 大学通り老成会　　9/27 商工会議所婦人部

本瀬戸山老成会の皆さんには常陸宮様ご来館前日にも特別に太素塚境内の清掃を行ってもらいましたので、宮様ご来館後宮内庁よりいただいた「恩賜（おんし）の煙草」をお分けしました。

◆ 新渡戸記念館来館者用屋外トイレを新築中

十和田市は現在、記念館の来館者用屋外トイレを記念館手前に新築しています。11月30日竣工予定です。

活 動 報 告

◆ 館長講演

7／2 厚年あすなろ大学講座　（青森厚生年金会館）
9／7 第４回青森県観光ボランティアガイド県大会
（十和田富士屋ホテル）

◆ 太素顕彰会理事会・評議員会

7月19日、十和田市総合体育センター２Ｆ研修室において平成14年度第一回太素顕彰会理事会・評議員会を開催しました。事業報告、収支決算報告、今年度会計補正予算案について審議が行われ、原案通り可決しました。

〈編 集 後 記〉

太素塚周囲の枝きりも終りました。お蔭様で第30号を発刊できましたが、だよりの発行は思ったより大変なことでした。さらにわかりやすい編集に努めたいと存じます。市民の皆様の暖かいご支援とアドバイスをお願いいたします。

発　行　太　素　顕　彰　会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL（FAX）0176-23-4430
E-mail:nitobemm@hi-net.ne.jp
http://www.towada.or.jp/nitobe/
印　刷　有限会社 岩 間 印 刷 所